

# 福島の現場から ～学生の立場を経験して～

東京大学 大学院農学生命科学研究科  
鈴木 心也

# 最高の仲間に囲まれて

@土地資源学研究室

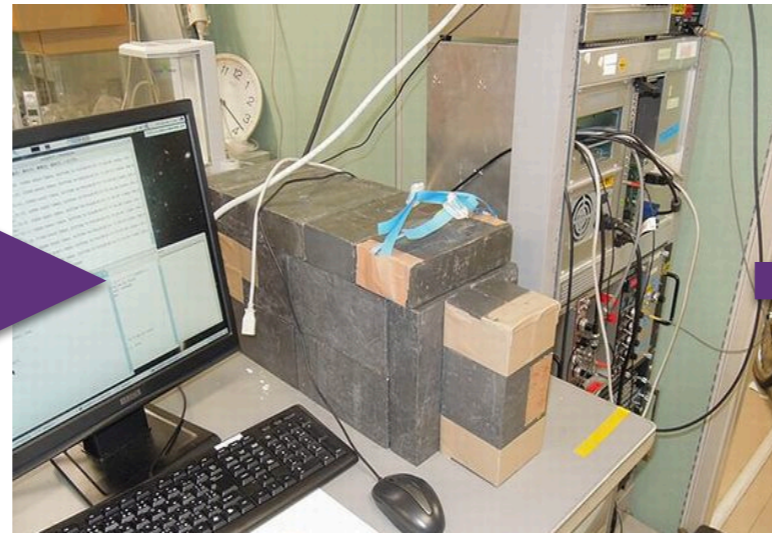
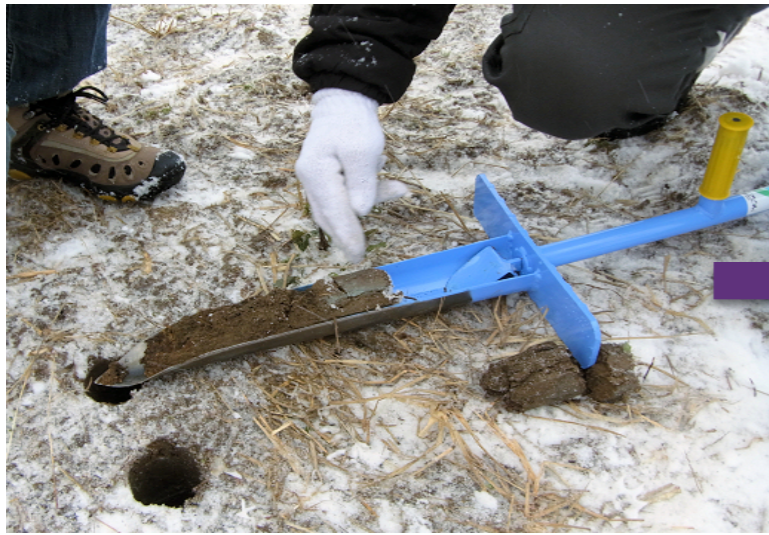


# 卒業研究・修士研究

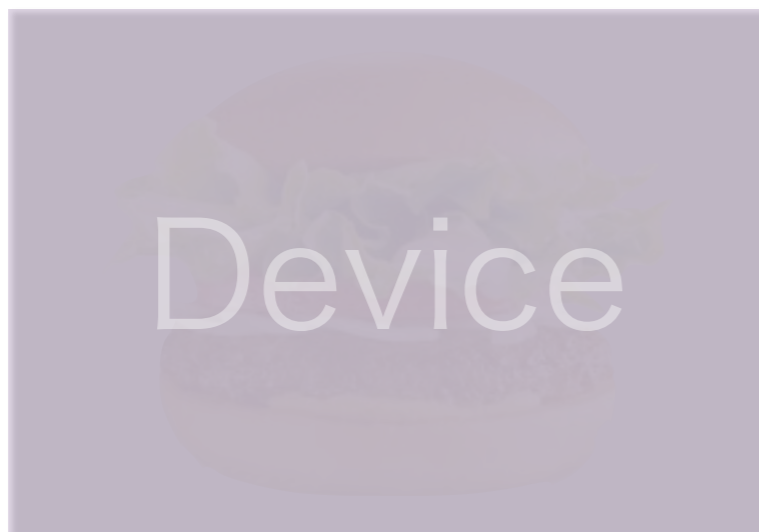


# 土壌中における深さごとのCs測定

## 【従来の方法】



## 【求められる方法】



# 土壌中における深さごとのCs測定

## 【従来の方法】

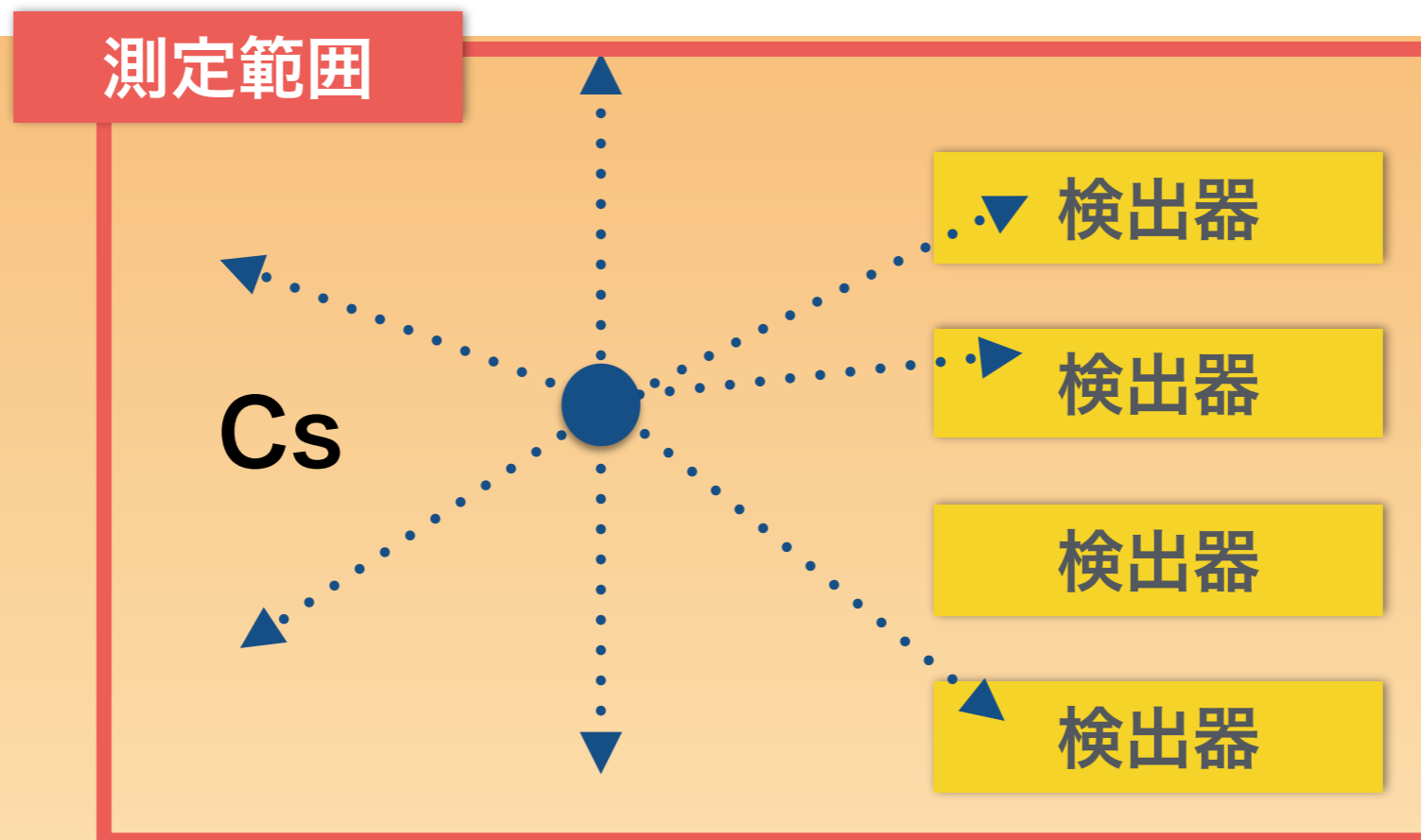


## 【求められる方法】

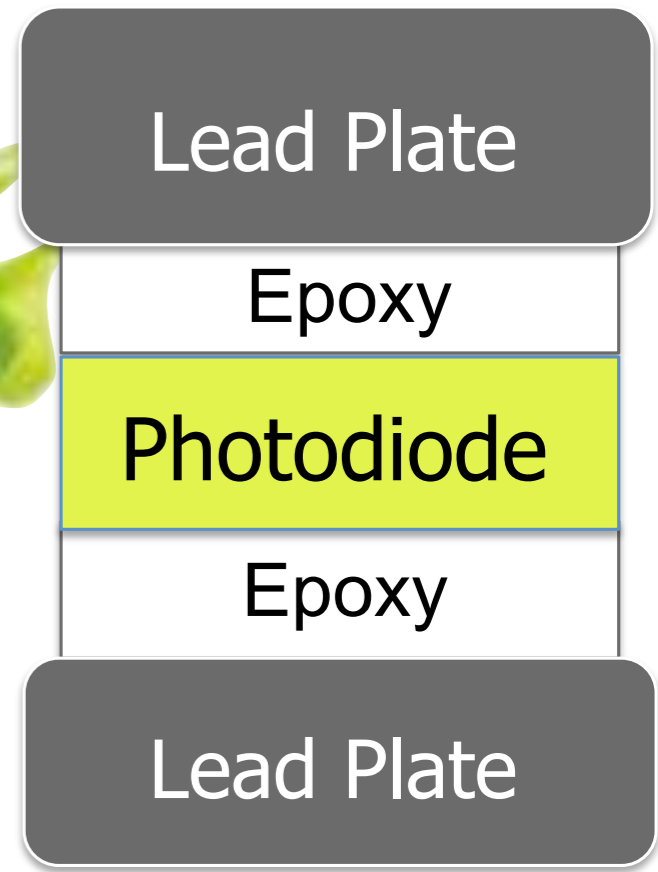
Device



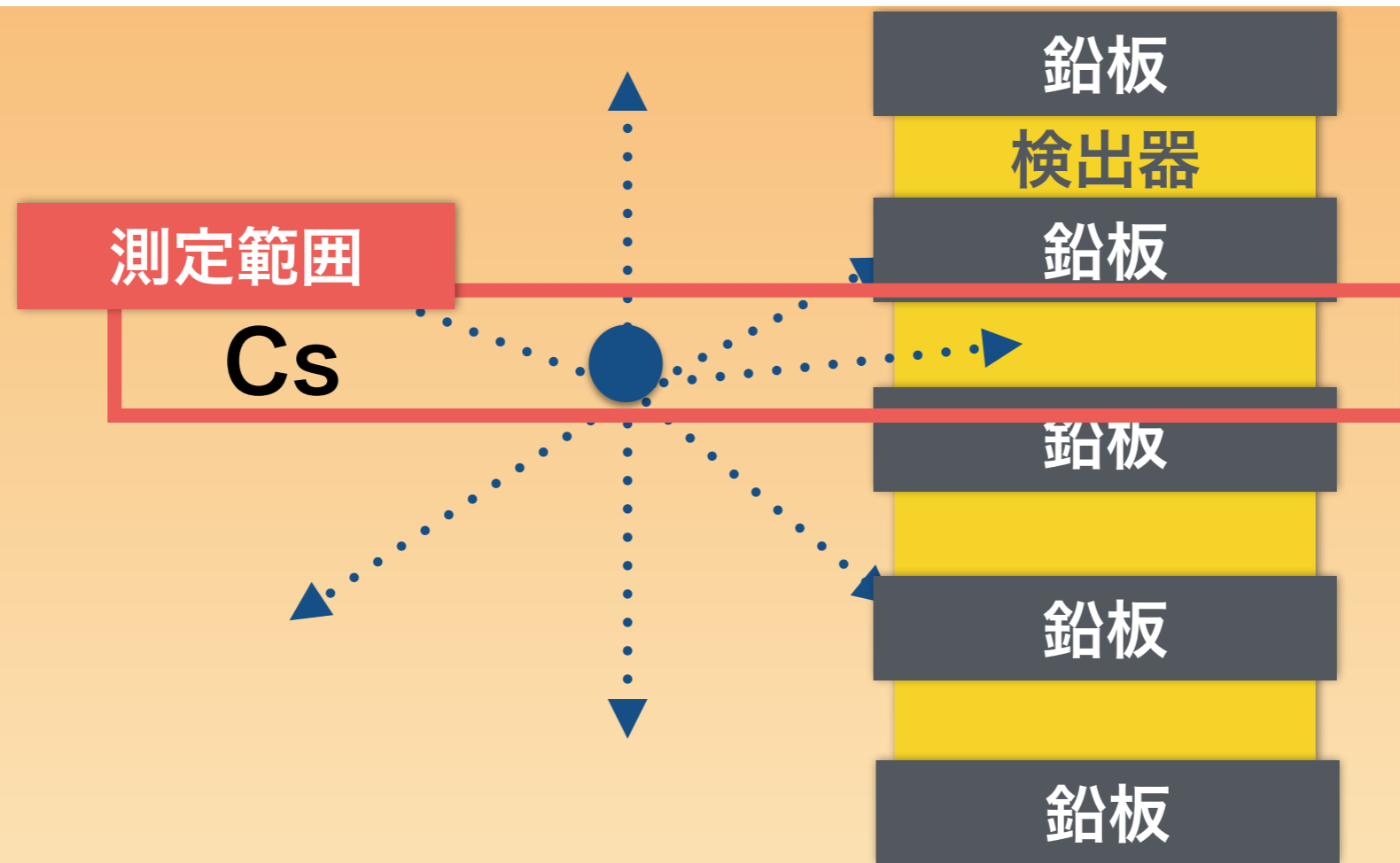
# どうやって深さごとの放射線をとらえるか？



# そうだハンバーガーだ！

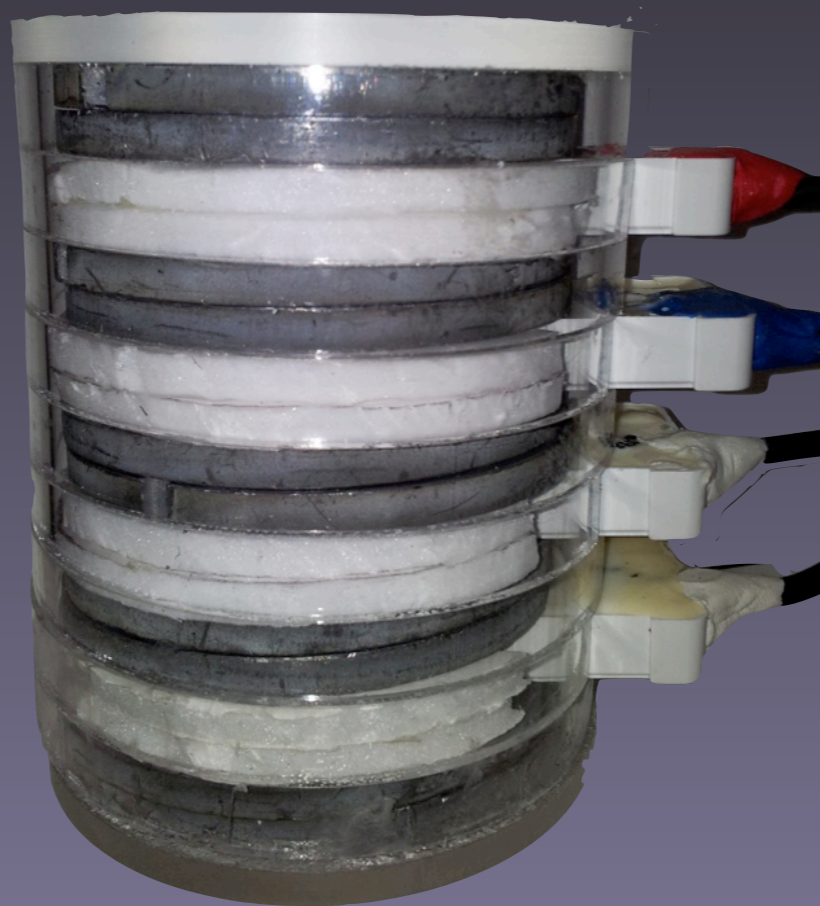


# 鉛で遮蔽することで深さごとに測定できるのでは？

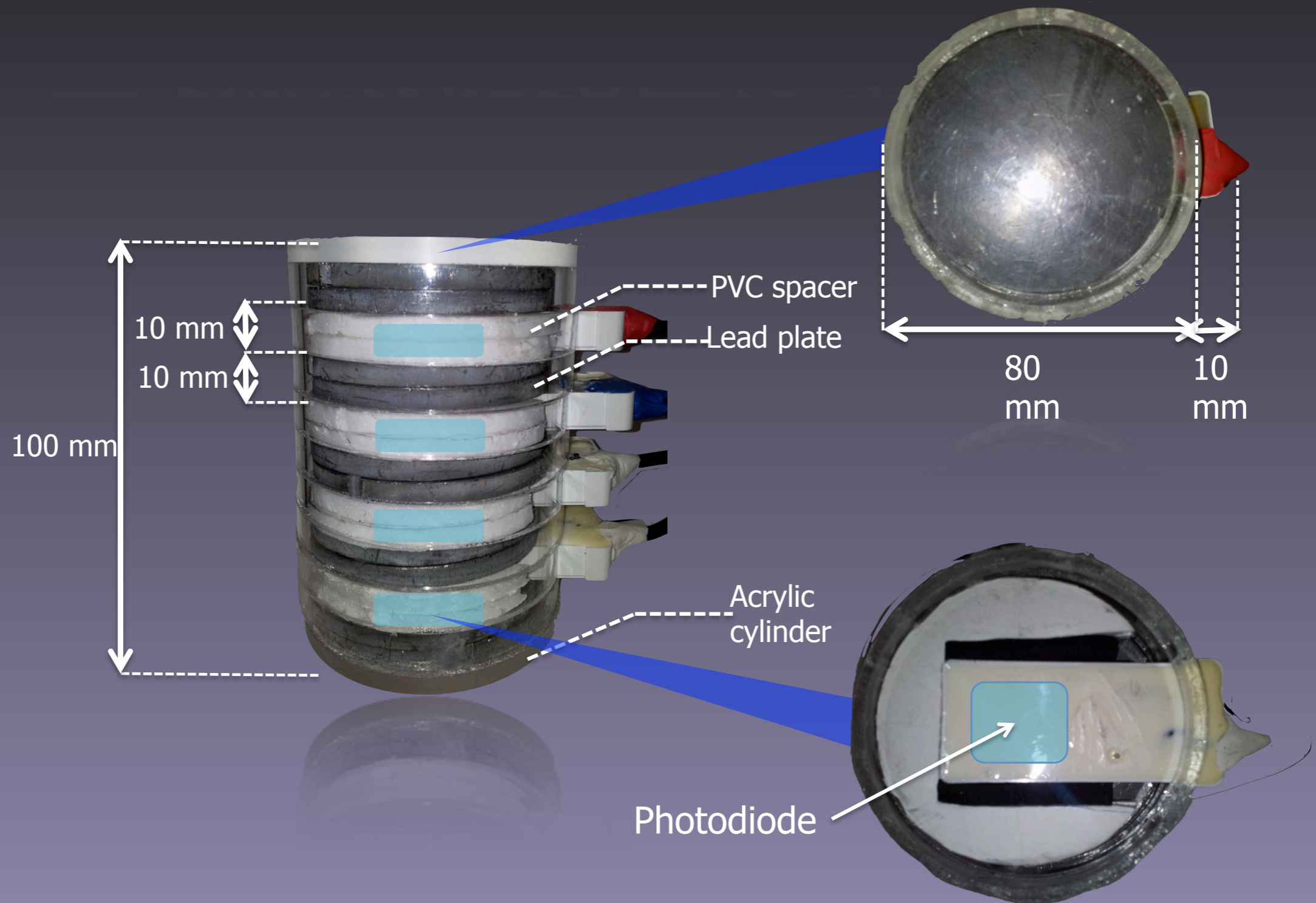




# 土壤放射能鉛直分布測定器



# 土壤放射能鉛直分布測定器



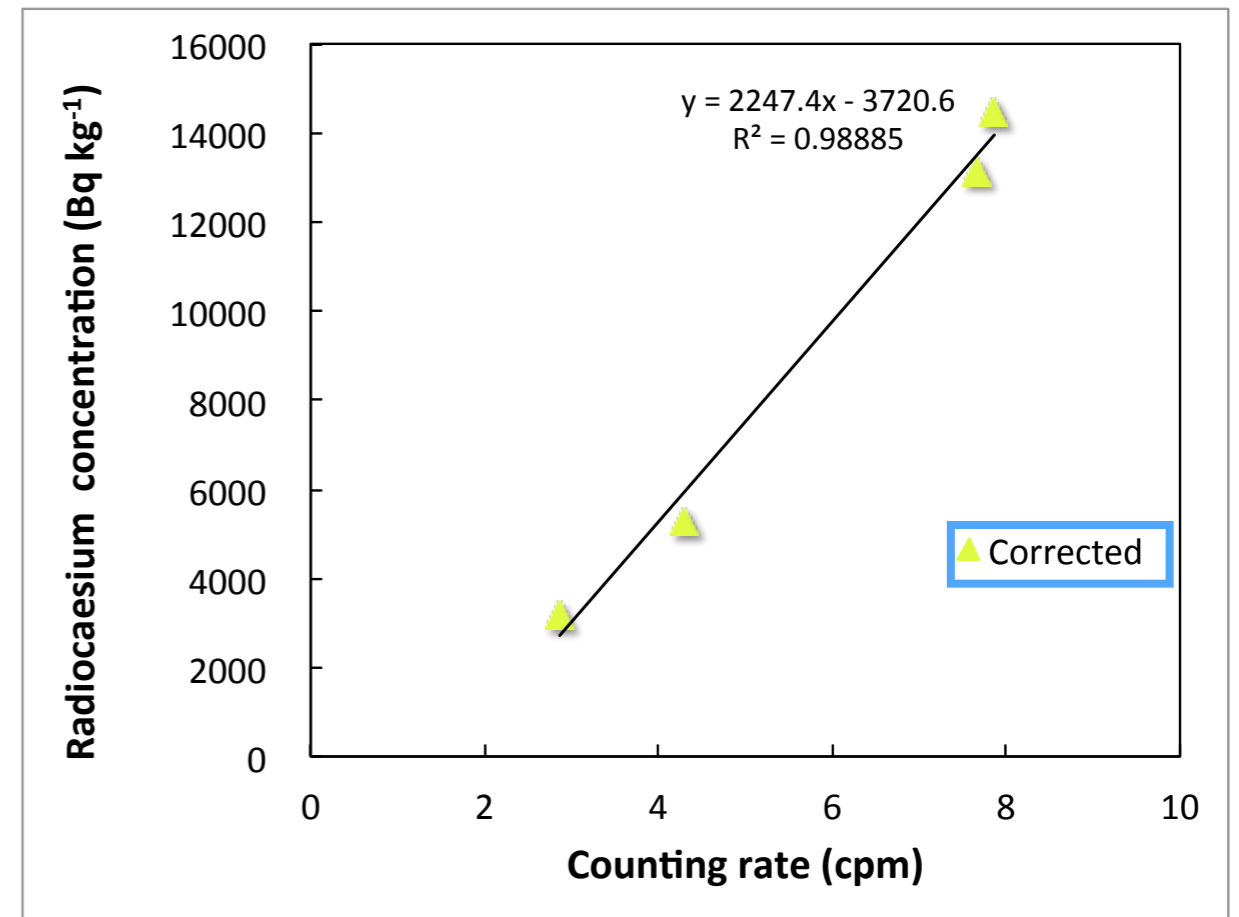
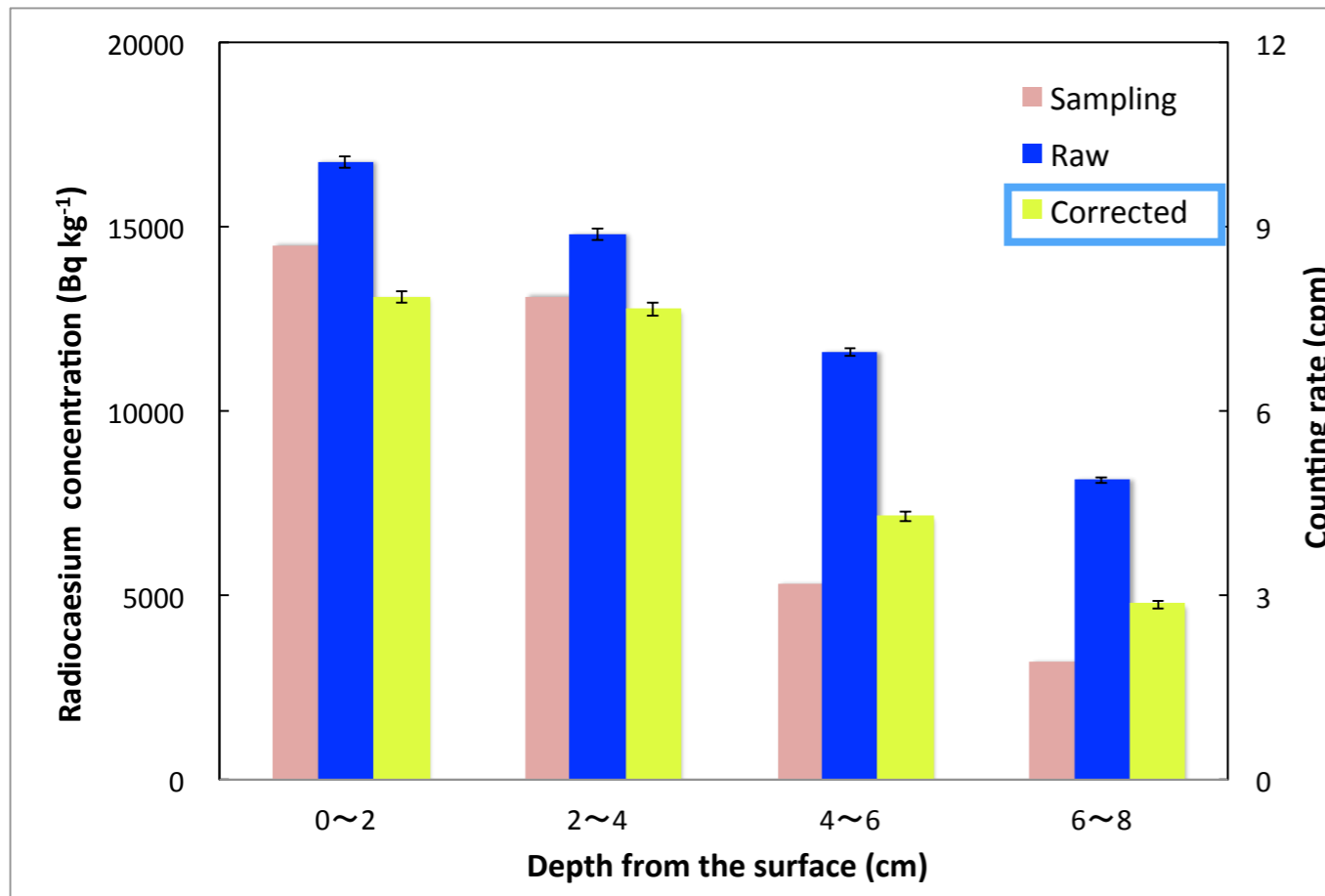


測定器



データロガー

# 卒業研究 まとめ



補正することでCs濃度と計数率は線形関係で表せる  
⇒ 測定器として利用できる可能性が大きい

【課題】 可搬性を高める、短時間で測定可能に改善する

# 土壤放射能鉛直分布測定器

「土壤くん」



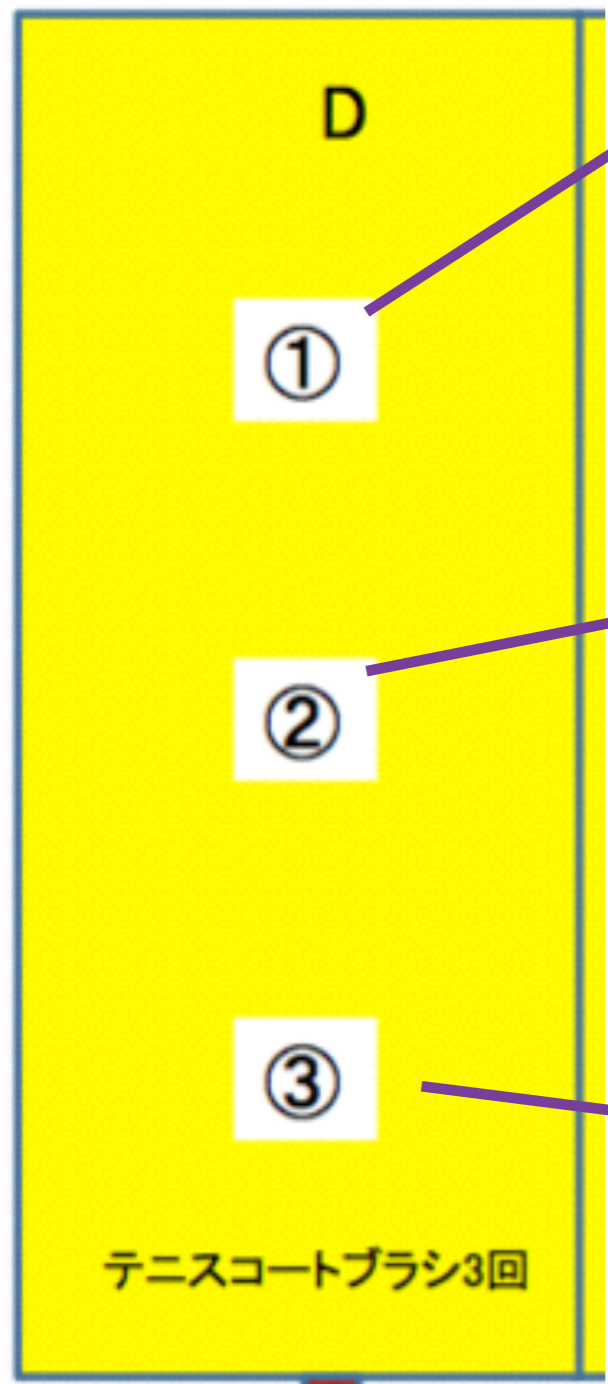
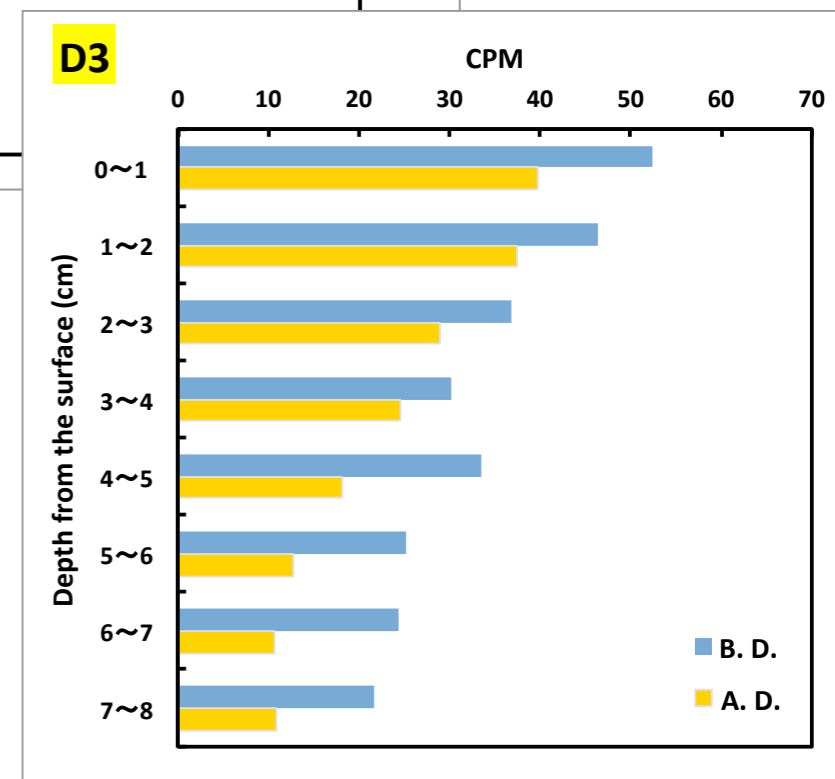
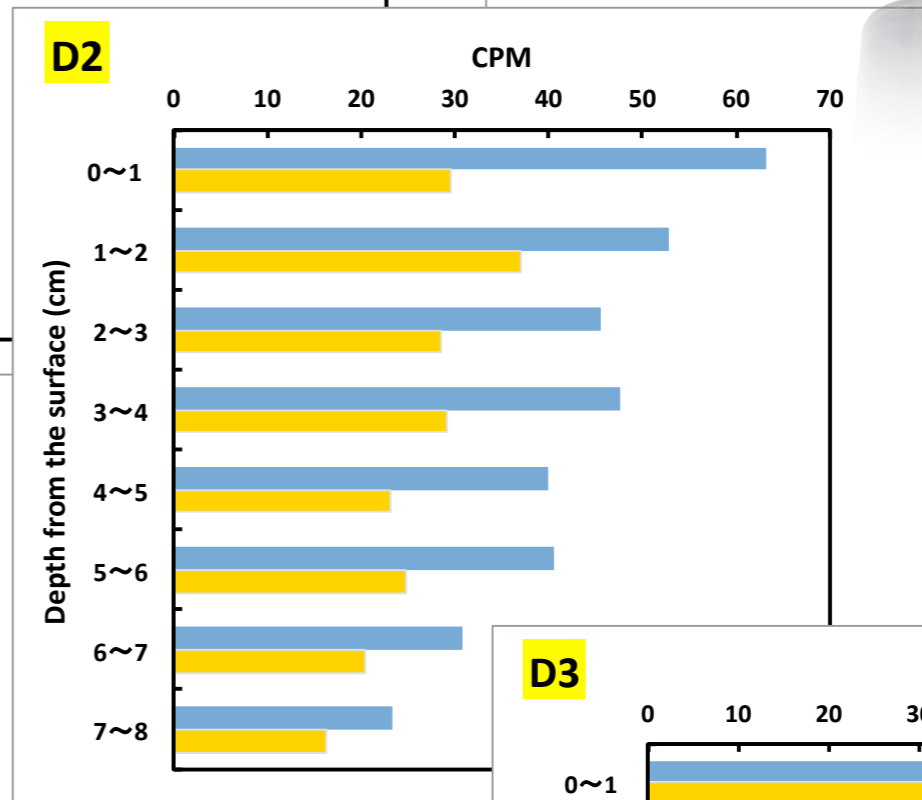
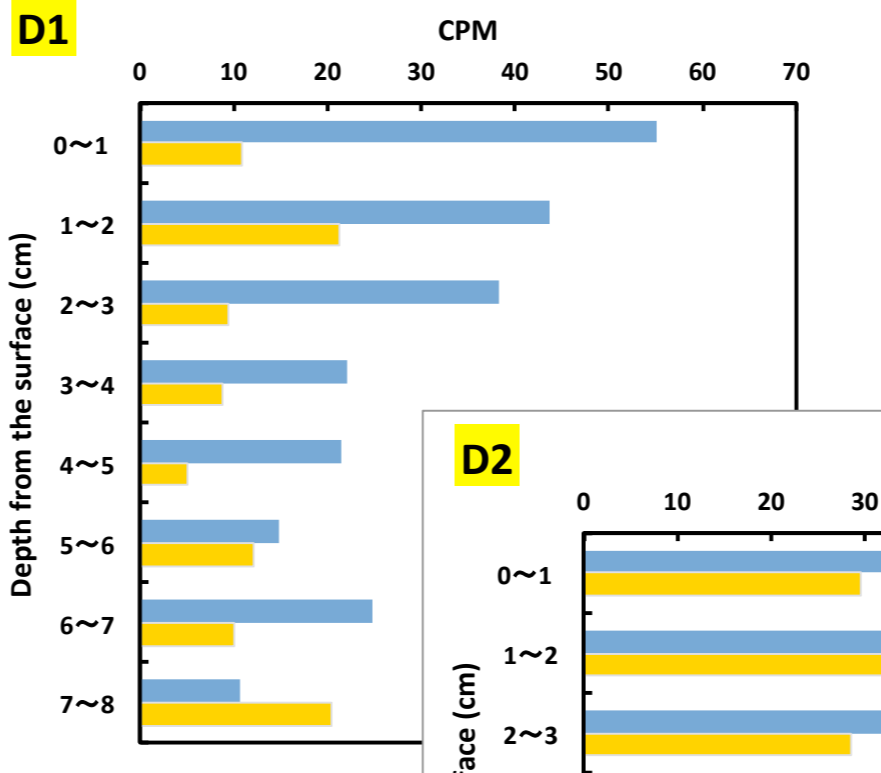
# 土壤放射能鉛直分布測定器

## 「土壤くん」





# 除染前後実験結果 (一部)



排水





# 飯舘村ワークショップ





若い世代の村民とのWS

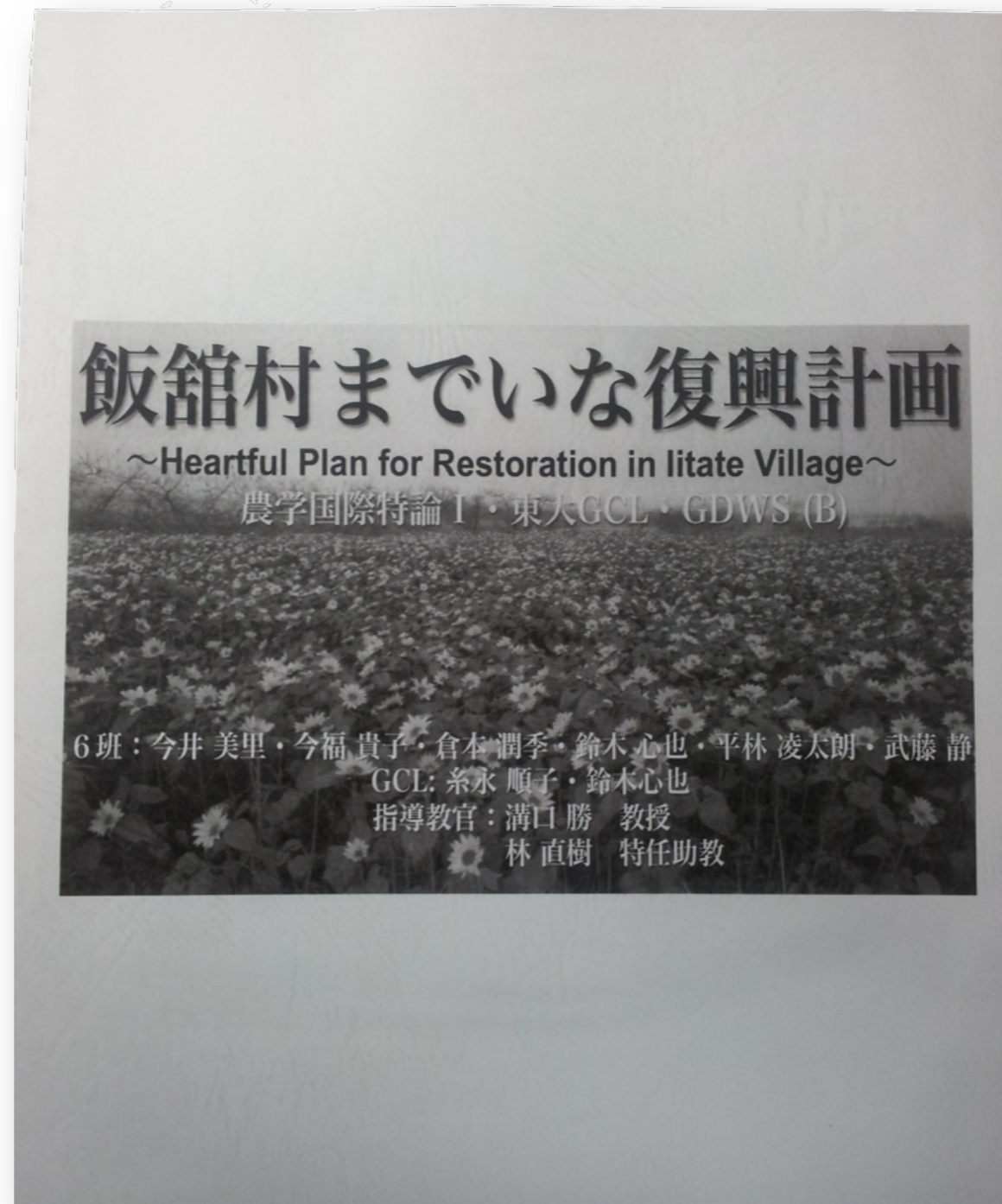


人生プロフェッショナル世代  
の村民とのWS



インタビューをもとに…

# 学生の知恵を集結させた報告書



# ① 震災前の飯舘村

インフォーマント No.	内容(一例)
1 (20代, 女性)	通学路など自然が遊び場
2 (20代, 男性)	大部分の人の職場は村外にあった 飯舘村の過疎や少子化は深刻な問題 かがみ石が有名
3 (30代, 男性)	「自然の中の暮らし」 手間をかける生活の良さ 自然が飯舘の宝
4 (60代, 男性)	自然が生活の一部で、マタタビ・キワダなどは漢方薬
5 (60代, 男性)	過疎の村だった 農業の生産性は低かった 飯舘には時間、ゆとりがあった
6 (70代, 男性)	地域内の結束が強かった 農業一本で生活できたが、過疎や賃金の問題で農業形態も変化 若い人が外から給料を取ってきて、年寄りが百姓 村の65戸はみんな山津見神社の氏子 若い人が祭りを主催

- ◆ 産業としての農業が空洞化していた可能性 (赤)
- ◆ コミュニティのつながりが強かった (青)

## ② 現在の飯舘村と自身を取り巻く状況

インフォーマント No.	内容(一例)
1 (20代, 女性)	家や土地の結びつきが大事 <b>除染の意味が見いだせない</b>
3 (30代, 男性)	帰る人と帰らない人で気を遣い合っている 帰りたい祖母と帰りたくない母の意見の相違 <b>除染</b> や <b>帰村</b> の具体的な方向性がない 見えないものへのストレス、土をいじりたい、学者不信
4 (60代, 男性)	生き甲斐の喪失 <b>村民の声を聞かずに除染し、寄り添った形になっていない</b> <b>仮置き場が優良農地で、戻ろうとしても意欲がわいてこない</b> <b>現場を知ってほしい</b> ひとりひとり、心や考え方は違う。それをどうフォローしていくか。
5 (60代, 男性)	<b>よい田んぼの上に汚染土壌を積み上げている</b> みんな自分の考え、行き先を見失ってしまった 若者は避難が長ければ長いほど避難先が便利に思える
6 (70代, 男性)	<b>帰村するかどうかは年齢によっても違う</b> 村に戻って生活したいという気持ちも薄れつつある 便利な所に避難しており、不便な村でやっていけるか不安

◆ 除染に対する不満 (赤)

◆ 帰村する人、帰村しない人における不和 (青)

⇒これらの問題を解決する場がない



# ③ 将来の展望

インフォーマント No.	<u>帰村に関する村民意識</u>	<u>村の未来像に関する村民意識</u>
1 (20代, 女性)	今すぐ帰りたい	動物を保護したい
2 (20代, 男性)	避難区域解除後、 1年以内に帰村したい	麻の利用(産業用+バイオ燃料) 企業に村に来てほしい 中山間域のモデルになる村づくり
3 (30代, 男性)	家庭を持つことを考えると、 すぐには帰村できない 帰る人も帰らない人もお互いに 思いやること	復興には除染の完了が不可欠 自分達がやりたいと思える選択肢
4 (60代, 男性)	みんなで戻りたい 「世代飛ばし」で帰村 帰村する人としらない人も気持ちを 理解すること	ハウスで野菜をつくる 新しい地域づくりが必要
5 (60代, 男性)	来年にも帰りたい	花をやりたい 高齢者をターゲットとした観光型農業 の実施
6 (70代, 男性)	若い人の無理な帰村な望まない おそらく若い人は帰村しない 早く帰りたい	村内の雇用の創出 農業+企業誘致 花卉

# 飯舘村『までいな復興計画』提案

## コミュニティ

### ◆ 拡大飯舘村

- ・ 帰村する人/しない人も「拡大飯舘村」の一員としてつながりを復興

e.g. ライブカメラ映像やデバイスの充実、ふるさと納税



## 産業

- ◆ 第一次産業: 新飯舘村設立+農業
- ◆ 第二次産業: 電力特区開設と工場誘致  
e.g. 部品工場、植物工場
- ◆ 第三次産業: 1.いいたて復興の灯りPJ  
2.山津見神社再建+祭りPJ



# 飯舘村 『まていいな復興計画』 提案

## コミュニティ

### ◆ 拡大飯舘村

- ・ 帰村する人/しない人も「拡大飯舘村」の一員としてつながりを復興

e.g. ライブカメラ映像やデバイスの充実、ふるさと納税

## 産業

- ◆ 第一次産業: 新飯舘村設立+農業
- ◆ 第二次産業: 電力特区開設と工場誘致  
e.g. 部品工場、植物工場
- ◆ 第三次産業: 1.いいたて復興の灯りPJ  
2.山津見神社再建+祭りPJ



「コミュニティの維持」と「産業の育成」の両側面から解決が重要！



東大GCL飯館村バス見学

